

御制御
トテ

9月から保守サービス

ランス
プシ

ソウ・システム 横河電機製など対象

ソウ・システム・サー
ビスはプラント制御シ
ステムの再構築やソフト
成を手がけている。新サ

ービス提供に際しては、
従来の分散型計装制御シ
ステム(DCS)の改造
業務で交換した電子基板

を洗浄して在庫し、動作
保証の取れた基板を保守
部品として供給する。
対象は横河電機の「C

ENTUM-XL」「μ
XL」と山武の「TDC
S3000」。このうち
「CENTUM-XL」
は1990年代に普及
し、現在も800システ
ム程度が稼働していると
みて、15年3月まで保守
サービスを続ける予定。
大型プラントの制御シ
ステムは、10年間のうち

にスクラップが見込まれ
る場合、制御システムの
更新を見送ったまま操業
しているケースが多いと
いう。しかし、制御シス
テムの継続使用を望んで
も、電機メーカーが制御
基板の電子部品の製造を
終了してしまい、プラン
ト制御システムの保守管
理が難しくなっている。

【立川】ソウ・システ
ム・サービス(東京都青
梅市、戸梶総社長、04
28・30・4111)
は、横河電機など大手電
機メーカーが保守サービ
スの打ち切りを決めたプ
ラント制御システムの保
守業務を9月に始める。
価格は1年間の保守契約
で1CPU当たり1万円
から、年間3億円の売り
上げを目指す。保守業務
を通じ、プラント運営事
業者からの制御システム
構築の受注につなげる。